

# 会報

全国公立学校退職教頭会

第66号

平成30年3月31日  
東京都港区愛宕1-6-7  
愛宕山弁護士ビル403号  
発行責任者  
会長 山浦 朝日

## 『全国公立学校退職教頭会』の

### 三十年の歩みを診る・・・

#### 社会的標本(教員)としての存在を通して

全国公立学校退職教頭会 副会長 川島 孝一



その歴史的な第一歩を踏  
み出したのである。

【註】①一四都道県「東  
日本地区」北海道・岩手・  
千葉・東京・静岡・岐阜」

「西日本地区」和歌山・岡山・広島・山口・香川・  
福岡・長崎・熊本」

その一

以来『全退教会』には紆余曲折や森羅万象の出  
来事等も視られたが「根幹的」である「福祉・  
叙勲・教育等」の活動の実践化は一般的に各地  
区では平穩に展開されていた。

特に、現職時(聖職的な職務)であったが、退  
職後は(社会貢献的な奉仕)という事からか「  
Unity School」的な地域では即人材源として活用さ  
れたり、平成十年頃の“生涯教育社会到来期”  
には、各分野で活躍する顕著な指導者を多く輩出  
し、往時の力量を遺憾無く發揮していた。

従って、この期(一九九八年・平成十年)の全  
国代議員大会及び会報等は充実すると共に『全退  
教会』も二四支部・会員四、二三〇名というこれ  
までにない組織力の拡充と進展を見せたのであ  
った。

【註】②以後の加入県「東日本地区」秋田・福島  
・群馬・富山・石川」「西日本地区」三重・滋賀・  
島根・徳島・愛媛・佐賀・沖縄」

その二

急速な高齢化(二〇〇五年以降)から、国勢は  
もとより社会にその問題や影響を与える暗い時代  
の到来により『全退教会』の二四支部・会員四二  
三〇名という大組織も、二〇一〇年(平成二二  
年)には、何と二二支部・会員二、七八六名とい  
う減少と退化を診せた。

要因は会員の高齢化による疾病・死去の急増で  
ある。こうした事態は何とも致し方のない事だが  
活動力の消却となるのであった。

従って、今後は各支部でもこうした事を重要事  
項として取り組んでいなくてはならないのであ  
る。さて、これに関して  
参考までに会員の生活度  
の一端を記したい。

その三

二〇一五年(平成二七  
年)、『全退教会』も遂  
に会員数が二千名を割  
り、千九百二十六名にま



※ 自由記載方式 G県支部会員の生活意識の実態とその動向調査資料

1996年（昭和8年3月）、全会員229名対象に「退職後の生活の実態」について質問紙法で実施した。その結果を端的に集約すると

(1) 国県市町村の公的役職に生甲斐を持ち従事している（粉骨砕身タイプ） **38%**  
 例：◆◆委員 □□保護司 ▲▲指導員 ▽▽評議員 ★★相談員 ○○奨励員 ●●理事 ◎◎講師 ◇◇支部長

(2) 日々を自由に楽しく明るくしかも安全に過ごしている（晴耕雨読タイプ） **49%**  
 例：野菜作り 国内外旅行 親子スポーツ 麻雀・囲碁・将棋クラブ 文芸（書・絵・歌）サークル 読書及びスポーツ

(3) 疾病等の為医院や病院に通院したりして加療している（形影相隣タイプ） **13%**  
 例：骨折 ・ 筋肉痛 ・ 腰痛 ・ 心臓病 ・ 消化器不全 ・ 前立腺炎 ・ 耳鼻眼炎等で

ところで

以上を踏まえて15年後の2011年（平成23年3月）、全会員141名対象に「生涯学習社会に生きる実態」についても前回同様に質問紙法で実施し、その結果を集約すると、なんと驚く事に前回の項目より

(1) 国県市町村の公的役職に生甲斐を持ち従事している（粉骨砕身タイプ）	<b>38%</b>	<b>減19%</b>
(1) に関わっては	19%	
(2) 日々を自由に楽しく明るくしかも安全に過ごしている（晴耕雨読タイプ）	<b>49%</b>	<b>減31%</b>
(2) に関わっては	18%	
(3) 疾病等の為医院や病院に通院したりして加療している（形影相隣タイプ）	<b>13%</b>	<b>増50%</b>
(3) に関わっては50%が病弱者であるという変数値が示されたのである。		

全く以て不可思議な事であるが、熟考すればこれは単なる年月の経過だけではなく会員が一様にそれなりに高齢化したという事に尽きるのである。

【註】③ G県支部の「退職教頭の生活の実態」及び「退職教頭の生涯学習の取組の実態」の調査書より抜粋  
 このような実態把握・結果から、支部会員の年齢・容態等により、主体的活動会員・賛助的活動会員・会費納入型会員が散見され組織及び活動を修正加除等した。

でになった。支部も一支部休会で二支部という極めて沈痛な事態になったが、こうした難局等を常に払拭していたのは、白熱化した恒例の全国代議員会の支部近況報告（口頭並びに資料による情報交換会）であったといえる。つまり英知と情熱が結集した音声の訴えや叫びが溢れ、飛び交うという“場”を醸し出していたことや、熱意と実践を集積した資料（貴重な各都県からの機関誌・会報）が、毎年、この会を活気づけ・盛り上げ・組織を結集させるへいわば救世主的なパワーやエネルギーを生み出した」と言えるのである。

なお新会員の勧誘・加入促進等も積極的に取り組まなくてはならない事、また、他の団体との大同連携や団結も大事な要件として気配りする事も急務であったが、願わくば、恒例の全国代議員会での【支部近況報告】三分間を今後は三〜五倍の時間帯にする英断を強く望みたいものである。

いわゆる、そこでの熱気や活力が枯渇しない限り『全退教会』は盤石であると強調したい。

【註】④ 註①・②以外の加入県支部（青森・宮城・兵庫・徳島・鹿児島）も『全退教会』広報にて紹介、但し、退会県は省略

昔から“子供は社会の写し絵”といわれてきた。これに対して教員は“社会的標本”といわれている。つまり、社会の善悪を教示する手本であり、その標本的存在であるからである、と。

しかし、このような事を常時弁え、礼記の「教學相長也」に精進をしても老境に入ると、この事を認識・自覚・体現する事が、次第に軽薄化するのである。

ところで、ある識者が『世の中には三種類の人がいる、話せば分かる人・話しても分からない人・話さなくても分かる人』と人間像を語っていたが―そこでは、物わかりが良く、思慮の深い、いわば『話さなくても分かる人』がベターであると強調、いや断言していた。

その意味で、『全退教会』は『話さなくても分かる人』の集団的群像である事を確信すると共にその存在を改めて評価するのである。

終わりに―ある人間學力学理論によると元気印（通称ガンバリ屋）が十名〜二十名参集すると百名近い力量を発揮するといわれているが、・・・さて、『全退教会』からこれにあやかる“実験的”な支部の出現はないものか？

今後の組織・活動の変容とその体現を視たい。いやその成果等を是非視てみたいものである。

各県の会報誌に掲載された会員の  
投稿文から選んで載せてあります

## 佐賀県

楠和 第五〇号より

### 「定年退職3年目の近況」

佐賀市 立川 弘子

一 佐賀市教育委員会こども家庭課勤務で児童クラブ巡回指導員三年目

三八年間の小学校の教員としての経験が生かせたらと思ひ、お引き受けて今年で三年目となります。

小学校担任二十年、特別支援通級指導教室担当四年、級外・教務主任四年、教頭十年を経て、現在、佐賀市にある三三児童クラブの巡回をしています。

巡回は、児童クラブ内でのこども達の生活の様子の把握と、改善に向けての働きかけです。学校生活とは少し違うこどもらしいのびのびとした中に、学校では見られないちょっとわがままな行動も見受けられます。そのようなこども達とその保護者への対応において、児童クラブ指導員の苦労や悩み解消に向き合う日々です。

巡回を通しての気づきは、随時こども育成係の担当に報告・連絡・相談します。またある時は、各児童クラブの運営に関する相談や、児童クラブ内の指導員間の人間関係の悩みに関する相談を受けること

もあります。

今後、小学校の主に低学年の教室の約半数が通って行く時代がくると言われる中、期待と必要性から制度の拡充が図られてきていますが、新たな悩みも多くなり、児童クラブ指導員の責任も重くなってきていると感じる今日この頃です。

指導員の方々のやる気を尊重しつつ、より適切なこどもへのかかわりと保護者対応に向けていっしょに考えることに努めています。

二 校区社会福祉推進委員一年目として

今年度からのスタートで、町区において、民生委員、自治会長、まちづくり委員と連携し、町区見守り活動計画の具体的推進が主な仕事です。とはいっても、数年前に町区班長と会計を引き受けたものの、その後は全く関わっていませんでした。

関わりの不足を補うために、今年四月からは、町自治会総会、校区社会福祉協議会・福祉推進委員会等、案内に従って参加し校区の現状を知ることから始めています

三 二人の孫のお助けママとして

長女の育休から復帰後、年長の女兒と2歳の男児のじいちゃんばあちゃんとして夫と共に、できるサポートをしています。近くに住んでいることもあり、わが子の子育て時に苦勞していたことを、今は手伝える小さな幸せと、子育て真っ只中では見えなかったことや小さなゆとりを見つけることができると感じる今日この頃です。

### 「わびわび」思いのふり

大西 末栗

平成二八年三月三十一日定年退職。

晴れて自由の身となり、それなりに思うがままに過ごしています。非常勤の仕事を受けていますので、完全自由ではありませんが……私の教員生活を一言でいうと、忙しかった。子供たちとの毎日は、葛藤の日々であったが、楽しかった！

教頭になってからは、いつも何かに追われ、時間を気にし、人からの評価に一喜一憂していたように思う。

年齢が進み、体力の限界を感じてくると「もうやめようかな」と弱気になったこともあった。しかし、子供たちの笑顔や頑張り、何気ない会話に潜む温かい思いや素直さに心を癒されたり、子供たちの成長に喜びを感じたりしながら定年まで勤めることができた。本当に子供たちには感謝である。

小学校の教師を仕事にできたことは、私にとって本当に幸せなことだったとつくづく思う。

退職した当初は、心にぽかっと大きな穴が開いたような何とも言い表せない複雑な心境だった。自由になってホッとしているはずなのに、抑えられないこの虚無感は何だろう。行き場を失った失望感か、必要とされなくなった寂しさか……。しかし、そんな思いも新学期が始まり初任者指導という新たな仕事に忙しくなると同時に、次第にどこかに飛んでいった。

さて、非常勤で仕事を頂いているものの退職したことには間違いない。退職したことを実感するため、新採指

導日以外の日は、大好きな鉄道の旅に出かけ山陽本線を幾度となく往復した。鎌倉、出雲大社、金刀比羅宮、大和路散策等、一泊か二泊のプチ旅行ではあるが「自分に褒美！」とばかりに歩き回った。

どこことなく悲しげに見える鎌倉の大仏様、遷宮を終えたばかりの出雲大社、参道の石段を息絶え絶え登った金比羅宮等.....

しかし、私の心を鷲掴みにしたのは、世界最古の木造建築、すでに千四百年という膨大な時間の流れが神秘的な雰囲気を出す法隆寺であり、そこで出会った素晴らしい仏像群であった。

中でも、私が震えるほど感動したのが「百済観音様」であった。すらりとした体躯、優しく微笑む安らかなお顔立ち、楠の一木造りで、百済という名前であるが日本で作成されたといわれる謎の仏像。しばしそのお姿に釘付けとなり、いろいろなことに思いをはせた。この出会いが、私のこれからを決定づけたようだ。

今後、私は仏像探訪を使命とばかりにあちこち歩き回ることだろう。

### 住みよい町づくりがんばり隊

武雄市 井手 泰子

学校を退職した年に家庭児童相談員をすることになったが、翌年度には、町の婦人会長の役も引き受けることになった。これまで以上によりよい町になるために、自分にできること、婦人会でできることをしていきたいという気持ちの底から湧いてきていた。

婦人会長三年目になった頃、地方創生の事業の応募が届いていて、取り組んでみることにした。案を作り、副会長にも相談し、町の公民館長、町づくり会長に相談したら、受け入れ賛同してもらい、後押ししてもらえ、より難く思った。婦人会を中心に、「もちより販売 ふれあい交流」を始めていった。私の住む西肝登町は、人口一九〇五名の小さな町、大きな店や病院もなく、人口減少、高齢化が進んでいる。

近隣の町まで行けば買い物や仕事はできる、自然がいっぱいで、農産物を育てることのできる魅力あるところなので、高齢になっても、元気に野菜作りをして、人との交流があれば、会話や笑いが聞ける住みよい町ではないかと思う。



「もちより販売 ふれあい交流」はかんころの家（元中学校、前保育所）で行っているが、次の十月三十日は第六回目、町のふれあい祭りと合同の開催を試みることにし公民館で開催する。一月二十八日には第七回目を予定している。

徐々に、町づくり産業部会、市議会議員、区長会、老人会、ボランティアの協力が得られるようになってきた。今回は、レクレーション協会とタイアップして

子どもたちも楽しめ世代を越えた交流の場になることを願っている。野菜や手作りの小物や民芸品など持ちよってくださる方も定着し広がりもみられている。

婦人会役員の中からは、ちょっと忙しいという声もあるが、地域の人や出品者からは、続けてほしい、こんな場があると交流ができて楽しいとか言ってもらっている。

仕事を持っている人も多い婦人会役員だが、できる人ができることをできる時にやることで、無理なく、地域のために貢献していくことの大切さを味わい、一人でも多くの人に関わってもらい、繋がりの輪を広げていきたい。

私も、野菜やサクラ草を育てて、少しだが



出品し販売している。他の役員も特技を生かしてアレンジメントフラワーや草木染めをするコーナーを担当してもらったり、地域の方に手芸のコーナーを担当してもらったり、いろいろな方のアイデアや情報をもたながら、交渉して引き受けてもらい繋がりが広がっている。八十歳以上の方の出番もできている。

子どもも来てくれ異世代交流ができるよう、オセロやお手玉、あやとりは、いつもできるようにコーナーを作っている。習字やスケッチにも取り組んできた。学校の協力もいただいている。昼のひとときも楽しんでもらう昼食ができる「かんころ食堂」もオープンさせ



た。婦人会ならではの腕前を生かし、ボランティアの方々の協力も得て、これまでに、豚汁、しし汁、ぜんざい、いなり寿司、おにぎり、冷しソーメンを作ってきた。「かんの食堂」での会話もはずんでい。漬物のレシ



ピを書いてもらって、コーナーを作った。毎回マンネリ化することなく、いろいろな企画ができてきたと我ながら思う。

ここまでこられたのも、婦入会の役員をはじめ多くの方の協力があったので感謝の気持ちでいっぱいなのですが、町をこれからどんなにしたいという願いをもち続け、明るい未来に向かって行動していきたい。

# 熊本県

会報 第六七号より

まだまだ、がまだすばいー!

新会員 緒方 良行

平成二八年三月三十一日、三八年間の教職生活に終止符を打ち、四月から何をしようかなと思っております

たが、急に四月二日から臨時的任用（講師）で、西原村立河原小学校で理科専科として勤務することになりました。

この河原小学校は、私が小学校六年間を過ごした母校であり、また、教諭として昭和五九年四月から平成五年三月まで勤務した小学校でもあります。当時の教え子たちの子どもたちが在籍していて、とても懐かしく、楽しく、意欲に満ちた気持ちでの出発でしたが、未曾有の四月の『平成二八年熊本地震』で、この気持は吹っ飛んで、違った出発となりました。何か、母校の河原小学校に勤務することが、運命であったかのよう

に思えてなりません。河原小学校では、理科専科として三年生から六年生までの理科と三年生の書写と図画工作を教えています。毎日が、子どもたちの成長を『喜び』、『楽しみ』、『期待する』日々です。そして、子どもたちから、たくさんの元気をいただいています。

これから先、子どもたちが、熊本地震から将来に向けて、力強く生きるために、また、西原村、河原小学校校区のために、まだまだ、がまださんといけないようにです。

## 田原坂 研修 参加

熊本市会員 三原 哲夫

本日の目的地は田原坂、かつて荒尾市で勤務していた時の通い慣れた道です。出発してしばらくして市街地を抜けたら、みかんや柿などがたわわに実りすっか



まずはビデオによる田原坂の戦いの説明

に力が入った様子です。現役の教師の時に聞いていた歴史の授業に役立ったことだろうと思いつながら聞き

ました。資料館には、実物・ジオラマ映像等が豊富に用いて分かりやすくなっています。資料館の周りも貴重な資料が残されています。あいにくの雨でしたが、一通り見学をすることができました。

最後は、ガイドさんの歌う田原坂です。歌詞の説明からも戦争の様子をうかがい知ることができ、戦争の悲惨さを改めて感じながら研修を終わりました。

初めて一日研修に参加しましたが、仲間と楽しく語り合い時間も約一時間十五分と丁度よく、心に残る研修でした。次回からより多くの会員の皆様に参加されることを期待します。



## 秋田県

## 自由な時間の中で

会報「松柏」

第二十六号より

横手市 寺田 優

六月下旬の二日間、私は東京赤坂のサントリーホールにいました。趣味であるオーケストラコンサートに行っていたの

です。日本フィルハーモニー交響楽団と東京交響楽団の演奏はいずれも素晴らしいもので、至福の時間を連日堪能することができました。長年の趣味であるクラシック音楽体験にこれまで以上に自由に時間を割けるようになったことは私にとって大きなことでした。CDによる音楽鑑賞でもお気に入りの装置で名演奏CDにじっくりと耳を傾ける時間ももてるようになりました。家の内外にも目を向ける余裕ができました。庭の手入れや除草作業などささやかなことではあっても得られる達成感により爽快な気分を味わうことができず。また、長年放置したままでなかなか整理できないでいた部屋や持ち物の片付けに着手し、進めてきていることも退職後の自分の生活を見直すうえで有意義なことになっています。

退職して四か月ほど経った今には現職時代とは違った時間がゆっくりと流れています。仕事を離れて初めて現職時代（特に教頭時代）は毎日がプレッシャーの日々であったことを痛感しています。常時プレッシャーから解放された日々の何と素晴らしいことか。

まだまだ新鮮な毎日です。

今年十月には娘の方に、来年三月には息子の方にそれぞれ孫が生まれる予定になっています。新たな喜びと幸せを家族とともにかみしめているところです。

自分と家族を大切に、家庭と地域社会の中で自分ができることに力を尽くしていきたいと考えている今日この頃です。

## 幸せな教員生活 そしてこれから

南秋田郡 村井 優子

この四月、教諭として三十年、教頭として八年の教員生活を終えた。初任

校は港北小学校、一学年五クラスもあり、私が担任したのは三年桜組、児童数は四十数名。大学を卒業してすぐに「先生」と呼ばれ、意欲だけはあるものの、学級づくりでも授業でもうまくいかず、自分の未熟さを思い知らされる毎日であった。ただ、新採用で校務分掌も少なく学担の仕事に専念できたこともあり、とにかく子どもたちとよく遊んだ。休み時間も一緒にドッジボールをしたり、休日アパートを訪ねてきた子どもと三角ベースをしたり、土崎の港祭りでおぼけ屋敷に入ったり・・・。

また、校内には「低額所得者の会」なるものがあり、ちょっと先輩の同僚から悩みを聞いてもらったり、上司の話で盛り上がったりと教職に関係あることないことも含めて、楽しい時間を過ごしたことが思い出される。その後は、南秋・潟上・山本・男鹿で仕事をさせていただいた。

それぞれの学校で子どもたちとの思い出や感動した出来事は数知れない。大きなことはできなかったが、やるべきことは精一杯やってきたつもりである。たくさんさんの素晴らしい人との出会いもあり幸せな教員生活であった。

現在は、これまで最小限度？のことでしかやってこなかった家族のために、退職と同時に料理本を数冊購入し、おいしくてヘルシーな料理作りに挑戦中である。町のセミナーで教わった発芽玄米の成果か、メタボの息子の体重が減少傾向にありひそかに喜んでいる。広い世の中、まだ、知らないこと・面白いことがたくさんありそうだ。先のこととはわからないが、いずれにしても自分の好きなこと・できそうなことを無理せず背伸びせず、自然体で楽しんでいきたい。



## 山口県

会報 第六十号より

## 海に恵まれた清流錦川と錦帯橋の町

岩国市ユカイランド

第一地区幹事 河田 龍夫

今回、「第二十八回のかなめ会親睦交流総会」を「かなめ会設立三十周年記念の総会」として、第一地区で引き受けることとなりました。大変光栄なことです。

皆様方もよくご存じとは思いますが、岩国市の紹介をさせていただきます。

岩国といえば、「天下に誇る名橋」(日本三名橋)と讃えられる錦帯橋です。木造五連のアーチが描く曲線は、春は桜・錦帯機まつり(奴道中・大名行列)、夏は錦川水の祭典・鶺鴒い、秋は岩国まつり・屋形船冬は雪の錦帯橋と、一年を通して周りの景色に見事に調和しています。

次は、城下町岩国の史跡散策です。

- ① 旧岩国藩主吉川家関連史跡  
錦雲閣(居館跡)・吉川資料館・吉川家墓所・吉香神社・岩国城・香川家長屋門(五家老の一人)・旧目加田家住宅(中級武家屋敷)

② 不朽の名作「おはん」の作者であり、女性実業家の先駆者・宇野千代生家・おはん文学碑

③ シロヘビの館(岩国限定地域に生息し、ルビ色の瞳が神秘的なシロヘビ)(突然変異で生まれた白いアオダイショウである)

④ その他(岩国美術館・岩国徴古館・岩国学校教養資料館)

参考までに、錦帯橋、ロープウェー、岩国城の3つセットのセット割引で、次のような料金設定になります。大人個人1110円が940円になります。(さらに団体は七五〇円)

また、岩国市周辺にも多くの観光スポットがあります。その一部を紹介します。

- ① とことんトレイン  
錦町からそとつ峡温泉までの清流宇佐川に沿ってトロッコ遊覧車
- ② 地底王国ムーバレー

旧鉢山の廃鉢跡。夏は涼しく冬は暖かく、砂金取りが体験できます。

③ 碑文「本是山中人」

芥川龍之介の父(新原敏三)の本籍地の玖珂郡美和町生見志谷に、芥川也寸志 芥川瑠璃子氏によって建立された。

④ 開拓事業(水路の整備など)

吉田松陰の兄「杉民治」が代官として赴任し、本郷地区に水路整備など

最後に、東京(羽田空港)と

沖縄(那覇空港)を結ぶ空の玄関口、「岩国錦帯橋空港」の開

通です。特に、東京へは大変便利になり多くの人

が利用しており、日帰りできるのが魅力です。今回の観光は、錦帯橋を渡っていただき、城下町を中心に散策し、ロープウェーに乗って岩国城に行き、城下町を眺めて頂くと思っています。



# 群馬県

会報 第四六号より

## 水墨画と私

伊勢崎支部 時田 豊

私が水墨画を習い始めたのは、今から二十年前のことです。自宅近くの福祉プラザで水墨画展が開催されました。以前から水墨画に興味を持って

いましたので、自宅から近い利便性もあり、出かけてみました。

会場には、会員の皆さんの作品が三十点、特別審査員兼会長さんの作品も出品されていました。どの作品も個性豊かで墨の特性を生かした見事なものでした。思わず強い感動を少なからず私もと

り、今にも飛び立とうとするさまが、まことしやかに表現されていました。水墨画の奥深さを感じました。出品者名をみますと、私の町内の方で会員兼審査員さんでした。

会長さんとはばらく話し込んでいるうちに、ご指導を受けることになりました。まさに老人の手習いといったところでした。

◎ 水墨画の手習いと先生の教え  
習い始めは、筆の持ち方・直線と曲線の引き方です。また、墨の濃淡を生かした竹の描き方でした。いく日も同じ練習が続きました。もちろん水墨画専用紙ではなく、新聞紙でした。やっこのこと

で次の「四君子」の描き方になりました。ようやく水墨画らしい練習に入り、大変嬉しかったことを覚えていきます。



◎ 四君子 写真コピー①

四君子とは、蘭・竹・菊・梅の四種を草木の中で君子とたたえられた言葉です。本来、君子は徳と学識・礼儀を兼ね備えた人を指し、文人は君子になることを目指したもので、蘭・竹・菊・梅四種の植物が持つ特徴が、まさに



君子の特性と似ていることから、文人画の代表的な素材になったと云われています。四種それぞれの気品高い美しさから、中国宋の時代より、東洋画の画題としてよく用いられたそうです。

さらに四君子を細かく言い換えますと、蘭はほのかな香りと気品を備えています。竹は寒い冬にも葉を落とさず青々としている上、曲がらずにまっすぐな性質を持っています。菊は晩秋の寒さの中で鮮やかに咲く姿が好まれています。梅は早春の雪の中で最初に花を咲かせる強靱さが好まれています。

つまり四つの草木を描くのは、基本的な筆使いを全て学べるために、画法を学ぶ重要な素材となっているのです。

※ フリー百科事典 参照

このような四君子を取り上げ、練習の画題としてくれた先生に感謝しています。練習はしばらく続き、描いては赤、このへり返しの修正が続きました。

やはり、四君子は水墨画の基礎基本を体得していく上で、大切な筆法なのだと思われ続け、練習

習用紙も相当数使用しました。

◎ 表現の原点

練習中に先生は、「水墨画の基礎基本」を口癖のように話してくれました。水墨画に限らず、絵を描くとき一番大切なことは、美しさに感じる心です。つまり、何に感動し、それをどう表現するかでした。このことは、水墨画を描く人の原点になります。私はカメラが好きで、友人たちと撮影に出かけることが多いです。他の人の作品の視点、何に感動しそれをこのように写したかがわかります。描くことも、撮影テクニックと全く同じであると思ったからです。

◎ 講師のことは

先生は、次のようなことを折にふれよく言われていました。

(1) 他人の真似をしない

人のまねをせず、下手でもよいから、感じたことを素直に描くことだ。何枚も描くことにより、創造的个性的な作品になる。これはたいへん難しいことだが、まねだけはしないほしい。

(2) 百の理屈より、多く描く

立派な用具をそろえたり、本を読んで優れた理論を知っても、水墨画を描けるものではない。実技の修得は、描く以外に道はない。数多く描くことだ。

(3) よい作品を見る

他人の作品を見ることも大切だ。美術館などで、優れた作品を数多く観賞する。いくら個性を重んじると言っても、広い視野をもたないと一人よがりになってしまっからだ。

(4) 基本は写生

スケッチをすることによって、その物がますますよく見えてくるし、より美しく感じられるようになる。スケッチは、それほど大切なものであることを忘れないでほしい、スケッチをした花を水墨画として描く場合、君の心を通した君の花 “として表現するのである。したがって、AさんBさんCさんが同じ花をモチーフにしても、おのおの異なった作品ができる。それは、それぞれの人格が異なるからである。このあたりまえのことが、水墨画にとっても最も大切なのである。

◎ マンツーマンからグループ仲間へ

写真コピー ②

今までは、先生との対話学習でしたが、同じ町内のよしみでグループの仲間に入れました。月に一度全員が顔合わせか



たがた、作品を持ち寄って話し合います。それから、先生の批評を伺います。先輩たちは、それぞれ歴戦の腕前で、作品展で何度も入選・入賞を受けているので、先生の話とは違い、実物を見ながらの話し合いなので実に参考になります。

◎ 手がけること 写真コピー ③

先生なしで練習している絵、それは水墨を手がけている多くの人たちに、大変魅力のある富士山です。

しかし、私は取り組んで間もなく病気のため入院さ



ぎになってしまいました。③  
志半ばで後遺症が残り、  
思うように描けない状態  
です。回復が一日も早ま  
るよりハビリに励んで  
います



## 島根県

会報「しまね」  
第二六号より

### 免許証返上

隠岐 門脇 昭辰

一 昨年車に乗るのをやめた。近頃高齢者の免許証返上が騒がれているが、私の場合、視力低下によると思える信号の見落とし、道路の縁石にぶつける、壁でこするなどが多くなったとの自覚、家族の運転反対などが原因である。

さて車を離してからは次のとおりである。

一、病院に行くのが不便である。

高齢になると病院とは縁が切れない。時々受診に行く、妻が入院し

た時など大変だった。バスを利用し

たがバス便は少なく、料金の小銭を用意するのも面倒である。タクシーは高い。そこでバスの島内全路

線通用の定期券を購入した。



二、畑に行くのが不便になった。

以前は、自宅から約1 km離れている処など三箇所  
の畑を耕作していたが、肥料や収穫物の運搬に支障  
をきたし、遠い畑の耕作をやめ、家の裏一箇所だけ  
にした。

三、ごみ捨てが出来なくなった。

普段のごみ出しは差支えないが、庭木の剪定など  
大量のごみ、大型のごみ出しが出来ない。以前は自  
家用車で、焼却場に運んでいたが、業者に依頼する  
ようになった。

四、各種会合、研修会への参加が出来なくなった。

町の老人クラブ連合会の役員会には、同地区の出  
席者の車に同乗させてもらっている。そのほかの会  
合にはほとんど出席しない。以前は主催者が送迎し  
てくれたが、今は出席依頼もなくなった。ほっとし  
ている。

五、趣味や自己研修、学習ができない。

私は写真とアマチュア無線を趣味としている。写  
真は足で撮ると言われる部分がある。以前は海の夕  
日、波、水鳥などよきさつと思つとき、撮影に出か  
けていたがポイントまで行くのが困難であるなど残  
念なことが多い。

アマチュア無線では、高い所で運用して遠くの局  
へ(南極の局も聞こえる)と交信するのが楽しみだ  
が、諦めている。地区の歴史などで知りたいことが  
あるが、調査できないことが多い。図書館にも行き  
たいがほとんど行けない。

いろいろ愚痴を言ったが、運転免許証を返上し  
て良かったこともある。

一 車検など心配しなくてもよい。

二 車に乗ったとき自分が運転していないので、  
ゆっくり周りを眺められる。いつもの知った  
道だがいろいろ発見がある。バスに乗る時は  
高い座席に座ることにしている。

三 歩くので健康にいい。すぐ近くの用事でも、  
車で出かけていたが、歩くことにした。一日  
五千歩から七千歩ぐらい歩いている。健康に  
はいい。

四 家族の愚痴を聞かなくなっている。  
最近高齢者の人身事故のニュースを聞く。私は  
人身事故はなかったが、早く運転をやめてよかつ  
たと思っている。

### 学びながら楽しい時間

松江 松尾 弘康

昨年の三月に退職した私は、現在出雲郷児童クラブ  
の指導員として勤務しています。

児童クラブは、勤務校にも併設されていて、概略は  
知っていたつもりでしたが、職員として勤務する中で  
多くのことを学ばせてもらっているのが現状です。特  
に「指道員」から「支援員」への移行に伴う意識の改  
革があると感じています。子どもの安全確保は言うま  
でもなく、「子どもを一人の人格に育てていく」こと  
が求められています。

本クラブでは、生活時程に従って活動し、生活の約

束を守ることで規律が守られています。日常の掃除、学習タイム、読書タイムをはじめ、避難訓練や不審者対応訓練、遠足や科学教室、座禅会や誕生会等多くの行事があり、子どもたちと話し合いながら計画・実施されています。

「自分で考えて行動する子どもを育てる」が活動目標で、読書活動を重視した活動が特色です。掃除やおやつ時間終了後の自由読書以外に、毎日の「お話会」があります。指導員が担当し、読み聞かせを行います。短い話なら本一冊が1日分です。ピーターラビット全冊子二十四巻などページ数八十ページぐらい読み聞かせます。一年から三年のこと



もたちは、内容的には難しい話もありますが、読み手を見ながら静かに聞いています。毎日の積み重ねで、確実に聞く能力が成長していると感じています。

また、毎日の「お帰りの会」も特色の一つで、全員正座で参加し、健康観察後生活指導的な時間となっています。生活の様々な場面で、「自分ならどう考え、どう行動するか」を子どもたち自身に考えさせる時間です。集団生活で必要なルールや思いやり等の心を育てる時間として、とても重要だと考えています。

勤務は、一日四〜五時間ですが、私自身が教わり学ぶことの多い、充実した時間となっていると同時に子どもたちから若いエネルギーをもらう楽しい時間となっています。

### 寒や暑が身こじみて

大田 さと子 中祖 さと子

昨年は、寒さに身を縮め暑さに身を潜める中、母屋普請の決断といろいろと決めていく精神的な苦しさを味わった。

解体作業の人の力強さと勢い、六時過ぎより仕事に來られる左官さんの巧みな作業の姿。無口な大工さんの姿と向かわれる姿、それぞれを今回は退職して家にいたから一から十までずっと見ていた。新鮮でもあり、いろんな職種の人から学ばせてもらうことが多かった。感動を形にして返すことができるなら、私は何をしたいあげたらよいのかも、次々考えてはできる範囲で交流していった。棟上げには仕出し弁当をとったものの、栗おこわや小黒豆の炊きご飯も。八月よりさつま芋の試し掘りからできることを等々。大田の角寿司も時をみて作った。

正月は、子や孫もそろって迎えた。それぞれの得意分野で子も力を貸してくれた。掃除の仕方や道具まで揃える子もいて、子に教えられることも味わった。

別棟のリフォームとつなぎが完成したのは、正月明けからだった。ほっと一息。体の疲れをとってやりたい。よう持てたと後で思う。義母が今までの家を建てるときは、昼間ずっと世話をして見守ってくれていたことの重さを感じるが多かった。節々に足を運

び墓前で報告し、今日に至ったことへの感謝と次へのバトンタッチができるように……

## 福島県

「松韻」  
二五周年記念誌より

### 心をつなぐ絵手紙

福島 島崎 照富

平成十年一月、石川県に住む妻の姉夫婦から絵手紙のはがきが届いた。NHK絵手紙入門をTVで観ながら絵手紙を描いて楽しんでるが、手紙を受けてくれる人がいないと上手になれないそうなので、受け人になって欲しいという依頼だった。それ以後、毎日のはがきが二枚届くようになり、姉夫婦の生活がよく分かった。

私たちは、勤めていたため休みの日にだけ、庭の草花、野菜、果物を描き、両家の絵手紙の交流が始まりました。私たちも絵手紙用のはがき・絵の具等を揃えて、どうしたら上手に描けるのかを、本を読んだり、TVを観たりして、絵を描く時間が一日の生活の一部になってきた。



姉夫婦の絵や文字は日毎に上手になり私たちの絵の手本であった。旅行に行った時は、旅先から絵手紙を描いて、姉夫婦に送ったりした。何か月か過ぎると、平成十四年に退職してからは、私たちも毎日描くようになり、妻と一緒にいる時間が、二人の共通の趣味の時間だ。

十八年目になり、その間に子ども結婚、孫の誕生、妻が母の介護、身内の死そして東日本大震災といろいろなできごとがあったが絵手紙で辛いこと、悲しいことも、元気づけられ、励まされ、勇気づけられたものである。届いた絵手紙をアルバムに整理したが、その量の多さに驚き、歴史の重みも感じられた。いまだに郵便屋さんが来るのを楽しみにしているのは、十八年前と少しも変わっていない。

## アカトンボがいな

いわき 富田 武子

定年退職後、早十八年。美術教師として過ごした経歴を生かし、退職後も公民館などで絵を教えたり中央の絵画団体に所属し、毎年春には東京都美術館での展覧会に出品する等活動している。又、趣味である野生キノコの福島県内の分布調査などをおこなっていて、自分としては充実した生活をしているものと思っていた。

今秋、ふとアカトンボを見なかったことに気が付いた。そつえば数年前からアカトンボが少なくなっ

いたことは感じていたが、全く見ないということにはなかった。それが今年は一匹も見なかったのだ。これは大変だ、と愕然とした。アカトンボは秋の象徴であり、子供の頃のなつかしい思い出であり、心の回帰場所である。そのアカトンボに連なる幼き頃の古き良き故郷の記憶が消失する。調べてみると全国的に減少しているすでに絶滅危惧を疑われるほどになっていた。原因は新しく普及した農業らしいがその解決には政治的決断が必要だという。秋になればアカトンボが飛ぶのが当然と考えていたのが突然現実面に直面して言葉が失った。空を埋め尽すほど繋ぎトンボが飛んでいた晩秋の空は今ただ寂しく暮れている。古来の種や文化を大切にすることが真の文化国家なのではないかと怒ってはみても自分のことのみ過ごしてきたわが身を顧みて恥じて入っている。この喪失感は今分癒やされそつにない。

## 健康に感謝

郡山 矢内 勝子

「あー、今日も一日無事終了!」と、床に入った時のあの幸せな瞬間!

某月某日(金)晴 午前中は、現在の主な仕事となっている保護司の会合です、年間活動として組まれている行事のための担当者会議に出席しました。

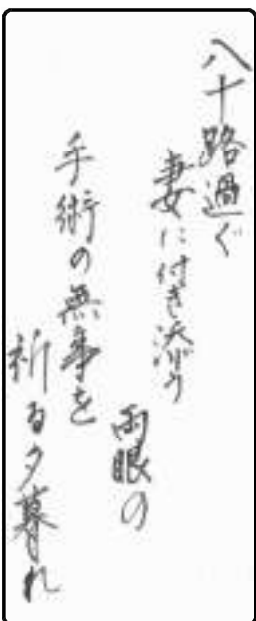
外で昼食をとり、はずむ心で次は、大好きなカラオケ教室です。完全に覚えきらない歌声は小さく、あちこちで変なハモリが入ったとしても、仲間と共に笑い、

それはそれは楽しい時間となるのです。先生の冗談半分の指導に励まされ、心一つになって、やがては美しい歌声となり、自分の持ち歌となっていくのでした。終了後急いで向かったのは、今は亡き叔父の家です。お彼岸なので仏前に香を焚き合掌。そして叔母と従姉妹と他愛もない話に花を咲かせてきました。

心も軽く、帰宅!と思いきや、その日のメインはこれからでした。二ヶ月に一度の演劇鑑賞会の日です、演目は「死神」。ミュージカルコメディで、どんな趣向かな?と思いつつ会場へと急ぎました。楽しみは二つ!勿論演劇鑑賞と、二ヶ月ぶりに会う友との会話です。いよいよ開幕、生のバックミュージックや場面ごとの舞台装置に感心していると、死神が登場。老いを真正面から受けとめ、その生き方を示すストーリーにどんどん引き込まれていきました。

こうして慌ただしい一日は終わりました。明日からも同様な生活が続いていくことでしょう。しみじみと健康のあり難さと幸せを感じているこの頃です。

## 短歌



伊達郡 国見町 天野 史郎 平成二八年八月一日



## 岡山県

会報「福寿草」  
第四〇号より

## 一粒一粒に心を込めて

倉敷 平田 智恵子

「骨身を削るようにして勤めているのを見るのは忍びない」という夫の言葉に、一年を残して退職した。その後、学校を外から見ることの出来る立場の家庭児童相談員として五年間勤めた。その翌年に、山陽新聞カルチャープラザデリカビーズ織り教室に通い始めて十二年。講師や師範を目ざすのではなく自分の楽しみとしてやりたい。

ビーズを一粒ずつ針ですくって織り機で織っていく。一段ずつ織り進んでいくうちに模様が浮き出てくる。二センチ角の小さなブローチが最初の作品だった。講師の先生は、「初めてなのに手際がいいですね」「色の組み合わせのセンスが素晴らしい」など毎回よさを見つけて褒めてくださる。私が、今、もし教師であったなら、もっとも子ども達の良さを見つけて褒めてやれたものをと後悔しきり。一メートルの長い織りのネックレス。幅が広く狭くなり、うまくいかない。でも先生は優しく丁寧に指導してくださる。落ちこぼれでも見捨てたりしない。

おひなさま、夕日の秋景色、ルビーのリングなど色々作った。一粒ずつ拾うビーズが、一〇〇〇粒二〇〇〇粒と集まって、作品となる。根気のいる作業だ。指先を使うので、ぼけ防止になるかなと期待しろつつ精進している。

## 私よ3B体操

岡山 太田 久子

私は教職を少し早めに退職しました。

現職の忙しさに比べ、毎日が単調に過ぎていく中で、婦人会支部長や民生委員などの町内の役が回ってきたり趣味のグループから誘われたりして、つきあいの輪が広がりそれなりに充実した日々でした。その趣味のグループの一つで、私が今も楽しく続けているのが3B体操です。

正式には「日本3B体操協会」といい全国に本部支部がある団体で、年齢や性別に関係なく楽しめる健康体操です。3BのBとはボール、ベル、ベルタの頭文字です。

私の属するグループは現在八〇歳代と六〇歳代まで一六名です。毎月三回、音楽に合わせて柔軟体操をしています。体操した後はよい汗をかいて体が軽くなった感じがします。一年に一度発表会があり、二曲披露しますが、なかなか動きが覚えられないのが難点です。

休憩の時の仲間とおしゃべりも楽しみの一つです。いやこちらの方がメインかもしれません。時候の挨拶から始まり、野菜作りの話や料理、健康、旅行など。先輩方の体験談も参考になります。また、時には野菜のお裾分けを頂くのもうれしいです。無理なく楽しく、これからも3B体操を続けていきたいです。

## 東京都小

会報  
第七六号より

## 地域に関わって

松田 正邦 (平成14年度退職)

町内会活動に参加して、今年は八年目になります。再雇用の五年間は、あまり時間に拘束されることなく、外で光を浴びてのんびりと草花の世話、各地の古建築を求めての旅等心安らく時を過ごしていました。特に地方の小さな町を訪れ、土地の人と交わした会話は、方言や民俗に興味を持っている私には、何よりの心の糧でした。

平成二二年近所の人から声がかかり、町内会の活動に関わりました。平成二三年三月 未曾有の大災害私の中の何かが変わりました。「こんなに気楽に過ごしていて、いいのだろうか?」「もし今この地域で大災害が起きたらどうなるのだろうか?」「こんな疑問と不安が頭をよぎり、旅に行かれなくなりました。

この年の四月から三、三〇〇余会員の会計を任せられたのを皮切りに、いろいろな仕事の依頼があり、本格的に地域活動に取り組みはじめました。

川崎市と接するまだ畑が広がる横浜市北部に住む私は、現役時代「横浜都民」でした。地元で知っていたのは家から駅迄の道沿いが中心だったので、会場で「屋号」が出てくるとチャンピオン。自分の時間がたっぷりあるのを幸いに、地図を頼りにとにかく歩き廻り、

台地と低地とを結び急坂を何度も往復しました。

四年目から「町内会だより」も担当し、現在は委員長として季刊で発行しています。この担当で、調べ・聞く・書くことを通して多くの知り合いが増えました。

何かに熱中できるのは、救急車で運ばれたり別の疾病で入院した私には、気が晴れ、病を忘れられるいい時になっています。又、公園掃除をしたり、グラウンドゴルフで汗を流したりしていることが、災害発生の際に協力しあえる人と人のつながりに役だっていると思っっています。上の二つの活動は、人が公園にいるので、防犯上もプラスです。

今後は、町内会の広報紙を通して地域で活動している方の紹介や、地域の魅力・歴史の発掘に力を注ぎ、広報委員会で話し合っています。

### 高田って どんどころ? -3-

#### ☆野菜生産の土地☆



高田町の山本記念病院に行くバス通り右には、斜面に畑が広がっています。遠くに目を移すと武蔵小杉の高層ビルが望め、対比が面白いです。

この通りは季節に関係なく。友人・夫婦連れ立って散歩を楽しむ姿を見かけます。健康維持やリハビリの人にも、季節の変化を味わえる人気コースの一つです。

高田は昔から巻物野菜(キャベツ・カリフラワー等)の生産が盛んで、横浜や東京などの市場に出荷しているそうです。

## 広島県

会報「絆」

第十八号より

### 西国街道を歩く

広島支部 立田 洋壮

昔の道、西国街道(下関赤間神宮〜京都東寺)を歩いています。楽しみながら健康づくりをしようと思っ気持ちは始めましたが、その魅力にすっかりはまり、残す区間は「神戸から高槻」のみとなりました。この道はおおむねJR山陽本線沿いにあるため、駅から駅へつないで歩きます(青春18切符が使える時期がかせぎ時)。浴道には、こんなに!というくらい神社やお寺が建っています。現在でも立派な姿を保っているもの、歴史の中で蹟人だけになってしまったもの、本当に次々と出会います。歴史ある小・中・高等学校の多くもこの道に沿って創立されたようで、その脇を通る時は自然に校舎や教室の方へ目が向いてしまいます。子どもの元気な様子はもちろん、懐かしさとともに先生方のご苦労への気持ちが自然に湧いてきます。一里塚や国境・顕彰碑などの石碑、旧家、本陣なども次々に訪れ、観光名所となっている所も少なくありません。城下町では、お城を避けて町屋を抜けるようなくりになっており、なるほどどうなずかされます。道はその街一番の通りアーケード街とつながり、かつて賑わいとともに時代の流れを思わずにはいられませ

ん。

一度に歩く距離はおよそ二・五km、所要時間は六時間程度。列車は山陽本線だけでなく岩徳線や井原鉄道赤穂線、新姫線なども利用することがあり、これも楽しみの一つです。西国道歩きももうすぐ完歩となりました。次は長崎街道や東海道に挑戦しようと思っいます。

### 近況報告

広島支部 松富 庄平

今年で九十二歳になります。目が薄くなり耳も遠くなり、足腰も弱くなりました。ヤレノードッコラシヨと全く年をとりました。

外に出るのは、病院通いが主で閉じこもりがちですが、近頃は囲碁サロン元宇品で地域の方と語り合っのを楽しみにしています。動作が鈍くなりましたが転けないよう一歩一歩大地を踏みしめながら歩んでいきたいと思っいます。新しい年を迎え、どうか平和で誰もが人間らしく暮らせる世の中になるよう祈ります。



### 足腰の老化現象

広島支部 堀 一明

参道の石段、灯台、城の天守閣、登山の参道は足腰の強さのバロメーターである。昨年十月、某ツアーで松江城天守閣に登壇した。

かつて大阪、名古屋、姫路、金沢、岡山、熊本、広島に登壇した時、富士山、大山登山の若かりし時代を思い浮かべうる「元氣なころ」が懐かしい。

松江城五層、急勾配の摺り減らされたつるつるの階段をやっとこさ登壇した。

一番先頭でスタートしたがついたら一番しんがり、降りてから大変、緩やかな石段、幅はあっても手摺りがない、筋肉疲労のせいかわからない、用心しながらいつ倒れるか、いつ躓くかわからない、用心しながらやっとこさバス駐車場に舞いおり叫ぶ。「ばあさん待つとくれ、わしやとでもかなわない。」妻は、普段鍛えているので夫をひやかしながら励まし見守ってくれる。ここまで弱っていたのか。残念無念！

十年前にペースメーカー着装後、急激に弱体化を覚える。前触れとして脹ら脛の痙攣、それ以前、国東半島の熊野磨崖仏、高千穂溪谷散策に難儀したこともあるが、今回は、それ以上の難儀であった。

「一眼・二足」とはよく言ったもの：横着で車・エレベーター・エスカレーターを利用する自分と、スポーツジム、プール・努めて階段を利用する妻との差が如実にあらわれた。今からでも遅くはない。今年こそ励んでみたい。



「継続は力なり」

謹賀新年

県退職教の発展のためにも互いにかんばりましょう

## 東京都中

会報

第三二号より

### 「気配り」と「忍耐力」

平成一一年退職 秋元 宏明

私は「光輝華麗者」(こうきこうれいしゃ)になり、首記の二点を痛感しています。なにかと疎まれる老人に、皆なりました。お互いに生きる勇気を出せば元氣が出る、元氣が出れば何でもやる氣が出る、退職教頭会・副校長会の語りはその一助になると信じます。

私は、全国の歴史スポット、すなわち神社・仏閣や史跡などへ、定年後訪れてます。その中で、一昨年中学以来の親友と、沖縄に行った時のことです。夜、泡盛を飲みながら、いつとはなく寝てしまった。深夜、異臭に目を覚ましたところ、親友が部屋の四隅に小便をしていた。彼は私より数段酒は強いが、糖尿病と高血圧があつて、やってしまったのだ。彼はボケがきていると言つて、あやまった。しかし、ホテルの従業員やツアーの添乗員に私も謝罪してまわったこと、清掃も手伝つたりして苦い経験が残った。友達の体調や夜の酒飲みはやめる「配慮、気配り」の不足であった。

帰宅後、彼は、奥さんから宿泊旅行を禁じられた。私だけでなくほかの仲間とも、食事会や町内の会合しか参加していない。これは笑い事では済まされない。

また、昔の会社の友達と宿泊をとまなう旅行では、通常は部屋は必ず別々にするよう、すなわち一人部屋

にと「気配り」をする。お互いに前立腺肥大症で、頻繁にトイレに立ち、いびきもすごいからである。齢を重ねれば、必ずなにかの病氣やくせが現れるので、他人の立場、持病、気持ちに「気配り」をしなければと痛感する。また、最近若者にも他人への「気配り」がなくなったら老人と同じだと思ふことがある。電車の中で足を投げ出して座ったり、眠りこけて人に寄りかかったり、化粧をしている女性は「気配り」がないと思う。私は「江戸しぐさ」のことを道徳で指導したことがあつた。あとから来た人が座れるように腰をこぶし分だけ浮かせて、席を少しずつ詰める「こぶし腰浮かせ」や、雨天のときには、しずくをかけないように外側に傘を傾けてすれ違う「傘かしげ」などが「気配り」です。

日常、自省をこめて他人への「気配り」を忘れないようにしたいと思ふている。そして、「忍耐力」は、私たちが現役で勤務中では大事なことでした。勤務の内容は違つても、困難なことに耐えてきたことは皆多かれ少なかれあると思ふます。

七十代は勤めがなくなり、家庭にいたことが圧倒的に多くなりました。要は老齢になれば利己心を戒め、忍耐力をつけることが必須のことだと思ふます。近所にわがままな老人は一人ではありません。男女共通です。奥さんが離婚しないものだと思ふほど、自分勝手な人もいました。その男性はリタイヤ後、自分で起きたい時に起き、すき勝手に食事を用意させる。あれの次にはこれをやれ式の命令をする。これは男でも女でも耐えられません。明白な「忍耐力」不足ですね。



私は。昨年姫路を訪れた。姫路市西部の書写山・円教寺（しよしゃざん・えんぎようじ）を見学に、ケールで登った。ここは東の比叡山に対して西の比叡山と称される天台宗の名刹、性空上人が開いた僧侶の修行の道場で地元の絶大な信仰を集めていた。

山上の寺城は広大で、国の史跡と重要文化財の宝庫である。大河ドラマ「軍師官兵衛」でロケに使われました。戦国時代、豊臣秀吉の播磨平定では、黒田官兵衛の進言により一時、姫路城からこの円教寺に本陣を移した所である。

山頂から円教寺までは、行き徒歩三十分・バス五分とあったので私は歩き始めた。入山受付の職員から「あなたは全山歩くのは、無理」と注意された。言われてみればもともとなことだが、あえて私は、「修行とはいわないが、忍耐力が続くと思うので徒歩で全山の・堂宇を回ってみます。バテたら、バスに乗ります。」と行って、



約六キロを散策した。歴史の勉強と、森林浴とで、爽快感を味わい疲れが癒やされていった。

タイヤ（歩く速さや筋力の衰え）は、この歳では仕方がないが、エンジン（忍耐力や勇氣など）がしっかりしなければと再認識した次第です。自分の狭い考えとは思いますが、これも日常生活の「忍耐力」ではな

# 岐阜県

会報「淡墨桜」  
第九四号より

## 新たな出発（退職を機にして）

美濃地区 高井 篤

十年間教頭を務め、無事定年退職しました。また、お世話になった先生方のお力添えもあり、運よく関市立中池自然の家の嘱託職員として楽しく働かせていただいています。

教頭になる前に突発性難聴を患ってから、年年聴きづらくなり、授業での子供の発言が聴きづらくなり、教員としての限界を感じていました。

今の職場では、その点気にすることもなく、研修に来る児童にオリエンティングを主に、クラフトや火起こしからの野外炊事の指導を行っています。オリエンティングのコースの安全管理で毎日歩きまわることが多いですが、もともと理科が専門で、ジョギングが趣味の私にとっては、苦になりません。子供たちの笑顔に触れ、ストレスもない日々です。そういう意味でも運がよかったと感じています。今の職場は半年ごとの更新、最大で三年です。私の場合は、とりあえず一年と聞いています。来年も勤めさせてもらえたら・・・日給制なので、健康管理に気をつけ、元気に毎日過ごすことが今の目標です。

## 「私の十句」

松橋 五笑（慎吾）

小生のサークルでは、一年のまとめとして、以下のように「私の十句」を提出しています。これは平成二一年に提出して、今日に至っています。一部掲載させて頂きます。私どもの句会は、俳聖「松尾芭蕉」の住人弟子の一人である第二代「各務支考」により、美濃派獅子門の流れをくみ、現在には第四一代「大野鶴土」宗匠です。多くの支社支部句会があり、小生は、『やよい句会』に籍を置きます。

### 私の十句（すめらぎは）

出巻待つ一刀彫りの千支の中  
惜らしき程強き横綱進む霜夜  
すめらぎは慰霊の旅へ寒風中  
春の夜半激震七に裂くる土地  
一歩二歩三歩句金へ梅雨晴間  
青蛙鳴くや思はず外に出る  
夏場所や化振回しに心意氣  
風鈴の音目を耳を洗ひけり  
百日紅白白のさるすべり  
唯今は原素探る靑青思

平成二八年十句 松橋五笑

# 富山県

会報「たてやま」  
第四九・五十号より

## 琵琶とよもい

元滑川市教育委員 吉崎 陽子

退職して五年目のある日、母が大切に用いていた琵琶を譲ってほしいと申し出があった。形見の品だから手放せないと断り続けたが、それなら、あなたが弾くことで、お母様のご遺志を継ぐことになりましようかと、強く勧められ、平成十二年に入門したのである。

現在は、錦清流琵琶全国一水会富山支部に所属し、毎年の演奏会や地域の文化行事などで演奏を披露している。入門を決意してみると、母の琵琶との思い出が甦ってくる。明治生まれの母が二〇歳代に琵琶の道に入った動機は分からないままであるが、私の幼い頃、母が、「石童丸」の物語を繰り返して口で聞かせてくれて涙したことが深く心に残っている。戦中・戦後の長い期間琵琶から遠ざかっていた母が、五〇歳代後半に再び稽古に励んでいた姿を見守っていたものの、私には琵琶への関心は全くなかった。しかし、入門してから、この道の名人の「石童丸」を聴いてみると月に叢雲、花に風、心のままにならぬことと、親を尋ね歩くこの物語には哀調を帯びた琵琶の音と相俟って、心に安らぎを感じさせられた。

琵琶の歴史をひもといてみると、ペルシャに源を發し、シルクロードの長い旅を続け、日本に伝わって来

たという。日本の琵琶には、楽琵琶、平家琵琶、薩摩琵琶、筑前琵琶などがある。

母が愛用していたのは薩摩琵琶。その材は堅い桑、撥は柘植で大振りに作られ、男性的な弾法と語りの特徴がある。それに対して筑前琵琶は桐材、撥は小さく三味線音楽に近い音色で女性的な響きを奏でる。楽琵琶は、現在も宮中音楽に用いられている。また平家琵琶は、雅楽琵琶を小型にし、「平家物語」を弾き語りを使ったことから、この名があるという。日本の伝統音楽として継承されている琵琶歌には、「川中島」「本能寺」「白虎隊」などの戦記物、「常陸丸」「城山」などの端物、「石童丸」「敦盛」などの物語系、「俊寛」「桜狩」などの謡曲系がある。いずれも琵琶の不思議な音色によってロマン豊かな旋律が生み出される。

近年、学校教育に和楽器が導入されたことから「分福茶釜」「兎と亀」などのお伽琵琶、平家物語の「扇の的」を演奏して子どもたちと学習する機会を得たことも、またとない琵琶へのよきこぼれとなった。

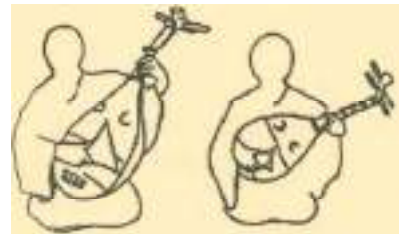
六〇歳代半ばに入門したものの、体調を崩したり、公務に関わった時代もあったり、曲折の歩みであった。それでも努力の甲斐あってか、平成二〇年に奥伝の資格をいただき、母の水号「楓水」を受け継ぎ今日に至っている。今後とも琵琶を伝えてくれた母の心を体し、私の八十路を生きていきたいと念じている。

冬すみれ形見となりし琵琶を弾く 陽子

### 《五種類の琵琶》



雅楽琵琶

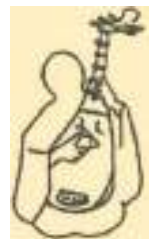


薩摩琵琶

筑前五弦琵琶



平家琵琶



筑前四弦琵琶

ふじつとつらねる... がんぼとつっちゃー!

(H28 10 取材)

私は今年一月に八六歳を迎えました。数年前までは孫と一緒にウィンタースキー、老人会、民謡、詩吟等の趣味を楽しんでおりましたが、年を重ねるにつれ足腰が弱くなり、昨年パーキンソン病と診断。リハビリ治療を経て、現在は車椅子ではありますが、自宅で妻と穏やかに過ごしております。病氣と折り合いをつけながら、週末恒例となった娘家族との食事会を楽しみ

に、一日一日を感謝の気持ちで忘れず過ごしていきたく  
 と思っています。

(南砺市 長谷川 周三 H3退)

これまで多くの高齢者から「長い人生を生きてきた  
 色々な思い出を語ってもらい、その方の語り言葉で書  
 いた、世界で一冊の本にして後世に伝える」聞き書き  
 をしてきました。

或る語り手は、これまで身内にも話さなかった貴重  
 な人生を涙ながらに切々と語るのでした。聞き手の心  
 はいつの間にかその方の心と響き合い、涙しながら聞  
 き入ってしまいました。どうして語り手と聞き手との  
 合作「物語」に、二人は喜びを共有したのです。

また、高学歴で個性的、要職を勤め終えた肩書き好  
 きな方の語りを聞きました。話は、地位の高い某氏と  
 は昵懇の間柄などと自己を誇示したり、自分の意に副  
 わない人の誹謗や恨み言の多いものでした。

聞き手はこの語りを推敲しながら「さて自分はどっ  
 だろうか。日本聞き書き学校(校長 柳田邦男)の聞  
 き書き者であっても所詮愚か者」と、いつしか自分を  
 見直していました。

(砺波市 藤塚 幸雄 H3退)

退職してもう二三年は過ぎました。これまでに町内  
 会長や老人会、お寺の世話等しました。今は老人会の  
 福寿大学とお寺の門徒会の世話をして居ります。

福寿大学は教養や法話、交通安全、健康、研修旅行  
 の内容を講師に依頼して行っています。会員は高齢化  
 して若い方の入会がない事と、去年は研修旅行の参加

者が少なかったので今年を取り止め、来年は行う予定  
 です。門徒会は、西岸寺の門徒となったのは父がなく  
 なった時から入会し、教化委員会の講座に出たり住職  
 さんと研修旅行に行ったりしました。

平成七年に推進員教習を受けて福光同朋推進員の世  
 話をし、高岡教区の推進員連絡協議会の会長もしまし  
 た。福光地区門徒会は、六月の同朋大会、八月の追悼  
 法要、十二月の法恩講が旧町寺院の僧侶全員参加し、  
 盛大に行われています。

(南砺市 清玄寺 八郎 H6退)

退職して一二年目。この間、孫の誕生、主人の大病  
 とその後の介護、親との死別、自分自身の体の故障等  
 まさに「生老病死」を地で行く月日の中にある。そん  
 な中で、出来るだけ家族を煩わせない最後の生き方や  
 潔い死に様に懂つつ、いつか身辺の事ができなくなる  
 であろう自分の姿を想像し、暗澹たる気持ちになる。

しかし、先日或る宗教者から、「過去は拝むもの、  
 現在は生かすもの、未来はいただくもの」というお話  
 をお聞きする機会があった。紆余曲折の過去があった  
 からこそ、喜怒哀楽の人生経験のなかで培った忍耐力  
 包容力、人生観等を糧に周囲の人々の支えに感謝する  
 心を忘れず、過去の学びを現在の環境に「在りのま  
 ま」に受け入れていきたいと思つ。

未来の老化を憂いていても何もはじまらない。過去  
 を拝み、現在に生かし、誠実に生きれば自ずといただ  
 く未来が拓けると信じ、日々の安寧な暮らしが一日も  
 長くと祈るばかりである。

(小矢部市 福田 茂子 H17退)

## 静岡県

会報「静岡」

第六五号より

### 歌う力が生きる力に

静岡地区 榛村 友宏

退職後市の生涯学習・高齢者講座  
 の世話係として勤務しました。講座  
 へ参加する人達から、若い頃歌った  
 懐かしい歌を歌いたいという声寄せられ、市の講座  
 とは別に希望者を募って会を創設し、現在も続けてい  
 ます。



現職の頃、音楽の生活化が課題でもあり、このよう  
 な要望は、私にとって願うところでした。  
 ひとつのグループを始めると、その様  
 子を伝え聞いて講師の依頼があり、数年  
 のうちにその数が増え、活動する会場も  
 公民館ばかりではありません。また、集  
 まる人も高齢者ばかりではなく、乳幼児  
 ・幼稚園児(母親も)から年輩の人達と  
 年代を超えて歌っているグループもあり  
 ます。

時が経つにつれ「もっと上手になりたい」「楽譜の  
 見方は」「声の出し方は」等の声も聞かれるようにな  
 り他のグループの歌を聞く機会として交流発表会を開  
 催しました。



一回のしもりが毎年どうこうになり今年で十回目になります。目標を持つことは、熱心になり励みにな

っているようです。唱歌・童謡  
・抒情歌から民謡・外国の曲・歌謡曲・演歌と諸々のジャンルの曲を、一冊の歌集を中心に、季節に合わせて、気分にかかせ、グループの希望に合わせて歌っています。混声合唱も歌っています。



思いきって声を出すことが、心身の健康にも脳の刺激にも効果があると言われ、他人の為に始めた歌う会が年を経て、自分の為になり私の健康維持の源にまた、生きがいになっています。集う方々に感謝・感謝の日々を送っています。

### 地域の皆様と共に歩む

浜松地区 前嶋 和行

私は、現在自治会を始め〇〇協議会なるものの役員をいくつかしています。その中でも特に本腰を入れて取り組んでいるもの二つについて述

べることになります。

一つ目は自治会活動です。三年間の副自治会長の後、自治会長となり今年度で二年目です。

自治会長の仕事は皆様も御存知のことと思いますが多岐に渡り、学校関係の行事への出席・交通安全指導企業への賛助会費伺い・祭り準備・住民からの要望の受付・自主防災訓練等数え上げればきりがありません。このような状況にさらに大きなことが巡ってきました。それは私の町内にヤマハ発動機の工場が移転してくるようになったのです。昨年は、受け入れのための話し合いを何度も行いました。そして、今年は、工事真っ最中です。

最近苦情も少なくなり、月一回の話し合いもスムーズに進むようになりました。

二つ目は、社会福祉協議会の高齢者福祉部会での活動です。今年で部会長四年目になりました。

この部会は、七五歳以上の高齢者を対象に、お年寄り同士の親睦・交流を図ることを目的に立ち上げられました。年間七回の交流会を実施しています。

リハビリ体操・歌と踊りゲーム・ぬり絵などを組み合わせながら行っています。私は、歌と踊りのコーナーを受け持ち、なつかしい歌を皆さんと一緒に楽しんでいきます。

これからも、くらしやすい町、心身共に若返り生活への意欲を高め合う町を目指していきたいと思えます。

### 復活の灯・ともじ役

小笠地区 鷲山 洋子

かれこれ五年近く前、小笠地区はいったん休会致しました。県本部から何度か再考を促されましたが進展はありませんでした。しかし三年後の一昨年、かねてより親交のあった長屋会長さんから一人でも二人でも大歓迎ですから是非入会を…」と熱く誘われたのを契機に意を決して入会致しました。

現在は二人会員(現職当時会長であった私と休会時に事務局長であった松本さん)で、復活に向けた準備の段階です。活動らしい取り組みはこれからですが、県との橋渡しを進める中で少しでも入会の意志を抱いている人がいればその窓口になりたいと願っています。少しさかのぼりますが、これまでの経緯について余談を交えながら述べさせていただきます。

掛川駅から南へ九キロ、掛川市立土方小学校のすぐ近くに私は住んでいます。

この地に標高一三二mの鶴翁山を中心に築城された山城・高天神城(現在は跡)があります。室町時代に今川氏の支城として築かれ、戦国時代には武田・徳川の両雄が浮沈をかけて戦った一大決戦場で、山城としては東海一の堅塁を誇ったところなのです。

私が教頭職に就いた頃は県内全域でも女性管理職は

ごく少数で、当然小笠地区四八校中唯一の存在でした。その私が教頭会長を担った年、男女こだわりなく話し合える交流の場として本部役員で会を作り、山城にちなんで会の名称を「鶴翁会」と名づけたことを懐しく思い出しました。

その頃の小笠退職教頭会は会員数四十名余の盤石な様相を呈していました。役員の方々も長く継続して務めてくださり、新規に退職した私たち世代は、県や市町、地元の役職や委員として活躍ができました。

しかし役員の高齢化が進み、一挙に交替の話が持ち上がった時は多忙を極めている会員が多く後継者選びは難航に陥り休会しましたが、今回二人で再出発しました。



## 研修部便り

全退教研修部は、発信する会として、本年度も「会報」「教育徒然集」「ホームページ」の三本立てで運営してまいりました。

皆様の執筆に対するご理解ご協力があり、「教育徒然集」(第二集)を発刊することができました。感謝申し上げます。「教育徒然集」は、第三集の発刊に向けて活動を開始しております。しかし、現在、まだ原稿が充分ではありません。「教育」と大上段に構えて書かれなくても結構です。おりにふれて感じたことを書きとめてお送りくださっても結構ですので、積極的なご寄稿をお願い申し上げます。

「会報」についてですが、代議員会において、支部の方々書いた短歌や和歌、俳句、川柳、書写、サークル活動なども掲載し充実を図りたいとお願いましたところ、多くはありませんが、俳句と短歌を掲載することができ、バラエティーに富んだ会報にすることができました。今後も充実した会報に向けて努力してまいります。

## 事務局便り

事務局長 須山 道雄

会員の皆様には、全国公立学校退職教頭会の活動に関して、ご理解とご協力をいただき感謝申し上げます。

本年度の代議員会は、五月に山口県の「セントコア山口」において、活発な討議が行われるとともに、懸案であった監事の人数を三名から二名へと会長名による感謝状贈呈の二点も了承されました。

あと、二ヶ月もすると、代議員会佐賀大会が開催されます。佐賀大会は九州ブロック大会と共催で行われ、講演会も企画されております。昨年十月には第一次案内までお送りくださり、佐賀県の役員の方々の着実な準備と努力に感謝申し上げます。実り多き会となることを期待しております。

佐賀大会以降の平成三一年度も秋田県支部が名乗りをあげてくださり、お礼申し上げます。他の支部も続いてくださることを期待しております。

現在、全退教は、休会や退会する支部もあり厳しい状況ですが、今後も、課題に真剣に取り組んで行きたいと思えます。なお、休会や退会する支部の会員の方で、個人会員として全退教に籍をおいてくださる方がいらっしゃいましたら、ぜひ、本部までご連絡ください。よろしくお願い申し上げます。